

■ 概況

6/8～6/14のNYMEX・WTI先物市場は67.12～71.29ドルの範囲で推移した。

6月15日は、中国の5月の石油精製量が前年同月比15.5%増の1460万b/dと、過去2番目の高水準になったとの報道、米国の経済指標の好調を好感し反発、70ドル台を回復した。為替市場のドル安も値上がり要因。7月物終値は前日比2.35ドル高の70.62ドル。

週末16日は、前日の中国人民銀行の市中銀行向け短期金利引き下げ決定、中国政府が景気刺激策を検討中との報道で、中国需要の拡大期待から、続伸した。米国内稼働石油掘削リグの減少も値上がり要因。7月物終値は1.16ドル高の71.78ドル。

週明け19日は、奴隷解放記念日の休日につき休場。

連休明け20日は、中国の利下げ幅が市場予想より小さく、景気浮揚には不十分との認識、加えて、中国国営石油「石油天然気集団」が中国の2023年石油需要見通しを下方修正したとの報道で、中国需要に警戒感が出たことから、3営業日ぶりに反落した。7月物終値は1.28ドル安の70.50ドル。

21日は、米国連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が米下院委員会で、年内の追加利上げの必要性を証言したものの、内容はタカ派的ではなくマイルドであったこと、また、為替市場でドル安が進行し、原油先物の割安感が出たことで反発した。この日から中心限月に繰り上がった8月物終値は、前日比1.34ドル高の72.53ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）は、6月8日～14日の間、71.80～76.00ドルの範囲で推

移した。6月15日73.10ドル、16日75.30ドル、19日75.10ドル、20日75.30ドル、21日75.40ドルで推移した。

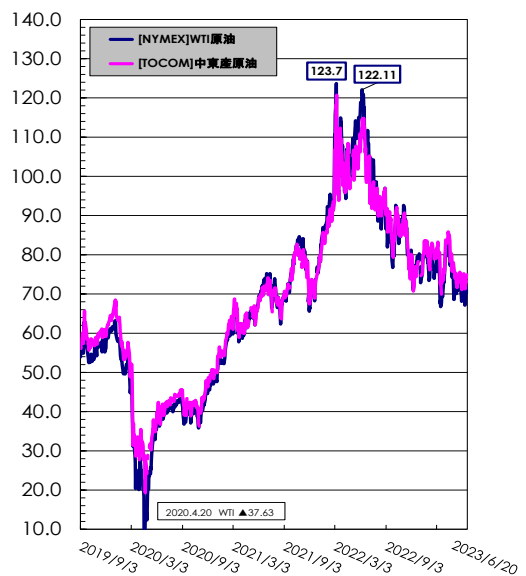
対ドル為替レート（TTM）は、6月8日～14日の間、139.15～140.07円の範囲で推移した。6月15日140.39円、16日140.32円、19日141.97円、20日142.23円、21日141.65円で推移した。

そのような中で、6月19日時点の価格は、ガソリンが前週比0.8円の値上がり、軽油も同0.8円の値上がり、灯油は同7円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は170.1円であった。

また、6月15日からの燃料油価格激変緩和補助金は20%縮減となり、22～28日の補助金の支給額は9.0円（従来ベースの補助額11.3円）となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/11～6/17	2,369 ▲94	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	63.9 ▲2.5	▼-
	原油在庫量 (千kl)	6/17	11,744 ▲577	▲-
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	6/19	74.38 ▲1.82	▼-31.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/20	70.50 ▲3.38	▼-40.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	86.54 ▲0.50	▼-21.28
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	73,787 ▲93	▼-13,847
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	135.56 ▲0.61	▼-6.34
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	6/19	142.97 ▼-2.54	▼-6.72

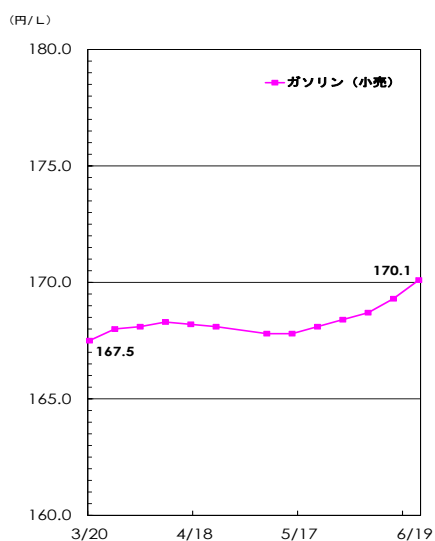
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/11 ~ 6/17	807 ▲ 6	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	851 ▲ 86	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -50	▼ -	
	在庫	6/17	1,596 ▼ -44	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/13 ~ 6/19	78.7 ▲ 0.9	▼ -4.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/13 ~ 6/19	74.2 ▲ 1.2	▼ -12.3
		(TOCOM/中部)	6/19	79.2 ▲ 0.2	▼ -2.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/19	170.1 ▲ 0.8	▼ -3.8	

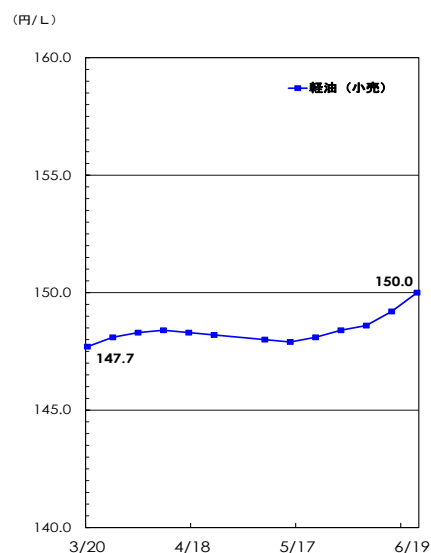
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

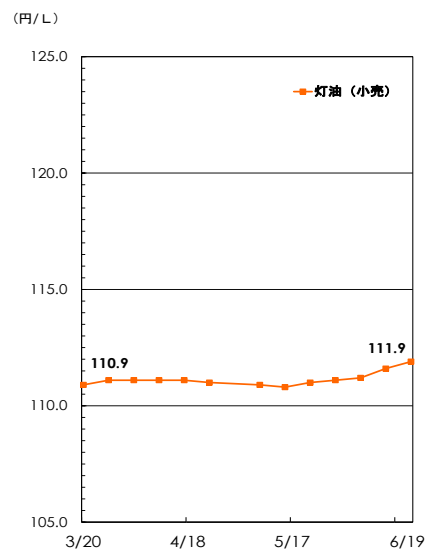
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/11 ~ 6/17	627 ▲ 59	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	490 ▼ -78	▼ -	
	輸出	"	51 ▼ -19	▼ -	
	在庫	6/17	1,448 ▲ 87	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/13 ~ 6/19	78.3 ▲ 0.7	▼ -4.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/13 ~ 6/19	80.5 ▲ 1.3	▼ -15.7
		(TOCOM/中部)	6/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/19	150.0 ▲ 0.8	▼ -3.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/11 ~ 6/17	144 ▲ 24	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	95 ▲ 9	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/17	1,483 ▲ 50	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/13 ~ 6/19	79.1 ▲ 0.9	▼ -3.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/13 ~ 6/19	79.0 ▲ 3.9	▼ -2.0
		(TOCOM/中部)	6/19	80.5 ▲ 0.5	▼ -0.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/19	111.9 ▲ 0.3	▼ -2.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(6月15日~21日)のWTI石油先物市場は、15日の70.62ドルで始まり、米中の好調な経済指標・景気回復期待から続伸したが、連休明け20日には反落、21日反発と不安定に動き、72.53ドルで終わった。

米国エネルギー情報局(EIA)の16日時点の米国国内週間在庫統計は、三連休につき、22日発表。

EIAによると、6月19日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.8セント値下がりの1ガロン3.577ドル(134.0円/ℓ)と2週ぶりの値下がり、ディーゼルの小売価格は、前週比2.1セント値上がりの1ガロン3.815ドル(142.9円/ℓ)と9週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、6月16日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比4基減の552基と2週ぶりの減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年6月11日~6月17日に休止したトッパー能力は82.8万バレル/日で、前週に対して14.8万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は236.9万klと、前週に比べ9.4万kl増加。前年に対しては30.2万klの減少。トッパー稼働率は63.9%と前週に対して2.5ポイントの増加、前年に対しては5.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてC重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.7%増、ジェット/3.2%増、灯油/20.0%増、軽油/10.4%増、A重油/8.2%増、C重油/8.3%減。今週のC重油の輸入は0.6万kl(前週比0.6万kl増)。軽油の輸出は5.1万kl(前週比1.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて軽油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は85.1万kl(対前週11.2%増)と2週振りに増加した。ジェット7.7万kl(対前週221.0%増)、灯油9.5万kl(対前週10.3%増)、軽油49.0

万kl(対前週13.8%減)、A重油18.3万kl(対前週8.9%増)、C重油16.1万kl(対前週4.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (6/11 ~ 6/17)	前週 (6/4 ~ 6/10)	前週比	
ガソリン	851	765	▲ 86	(11%)
ジェット燃料	77	24	▲ 53	(221%)
灯油	95	86	▲ 9	(10%)
軽油	490	568	▼ -78	(-14%)
A重油	183	168	▲ 15	(9%)
C重油	161	169	▼ -8	(-5%)
合計	1,857	1,780	▲ 77	(4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月17日時点の在庫は灯油、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは159.6万kl、前週差4.4万kl減。前年に対しては2.2万kl多い。

灯油は148.3万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては15.7万kl多い。

軽油は144.8万kl、前週差8.7万kl増。前年に対しては24.0万kl多い。

A重油は68.1万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては0.1万kl多い。

C重油は187.6万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては7.3万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (6/17)	前週 (6/10)	前週比	
ガソリン	1,596	1,640	▼ -44	(-3%)
ジェット燃料	755	797	▼ -42	(-5%)
灯油	1,483	1,433	▲ 50	(3%)
軽油	1,448	1,361	▲ 87	(6%)
A重油	681	688	▼ -7	(-1%)
C重油	1,876	1,916	▼ -40	(-2%)
合計	7,839	7,835	▲ 4	(0.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月13日～6月19日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートの円安が相当部分を相殺したが、元売会社の円建て原油コストは据え置いたものと見られる。

上記コストに先週の補助金額9.6円を加え、今週の補助金9.0円を差し引いた、6/22～6/28の実質卸価格は0.6円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月13日～19日の製品スポット市況は、6月6日～12日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近週(6/13～6/19)の陸上スポット価格平均値は、前週(6/6～6/12)比で、ガソリンは0.9円の値上がり、灯油も0.9円の値上がり、軽油も0.7円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/13～6/19)に、前週(6/6～6/12)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も0.2円の値上がり、軽油も0.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油も3.9円の値上がり、軽油も1.3円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (6/13～6/19)	前週 (6/6～6/12)	前週比	
レギュラー	78.7	77.8	▲ 0.9	
灯油	79.1	78.2	▲ 0.9	
軽油	78.3	77.6	▲ 0.7	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値[平均])	今週 (6/13～6/19)	前週 (6/6～6/12)	前週比	
レギュラー	74.2	73.0	▲ 1.2	
灯油	79.0	75.1	▲ 3.9	
軽油	80.5	79.2	▲ 1.3	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/13～6/19実績値)				(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.9	▲ 1.2	▲ 1.1	
灯油	▲ 0.9	▲ 3.9	▲ 2.4	
軽油	▲ 0.7	▲ 1.3	▲ 1.0	
A重油	▲ 1.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円高の170.1円、軽油も0.8円高の150.0円、灯油も18%ベースで7円高の2,015円(1%ベースでは0.3円高の111.9円)。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは41府県、横ばいは2県、値下がり4都道県だった。全国最安値は兵庫県と岡山県の164.7円、その次は秋田県と徳島県の165.1円であった。他方、最高値は長野県の179.5円だった。最も値上がりしたのは滋賀県(前週比2.9円高)、横ばいは高知県と三重県、最も値下がりしたのは東京都(同0.9円安)だった。

次回調査時(6/26)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]	今週 (6/19)	前週 (6/12)	前週比	直近高値	
レギュラー	170.1	169.3	▲ 0.8	08/8/4	185.1
灯油	111.9	111.6	▲ 0.3	08/8/11	132.1
軽油	150.0	149.2	▲ 0.8	08/8/4	167.4

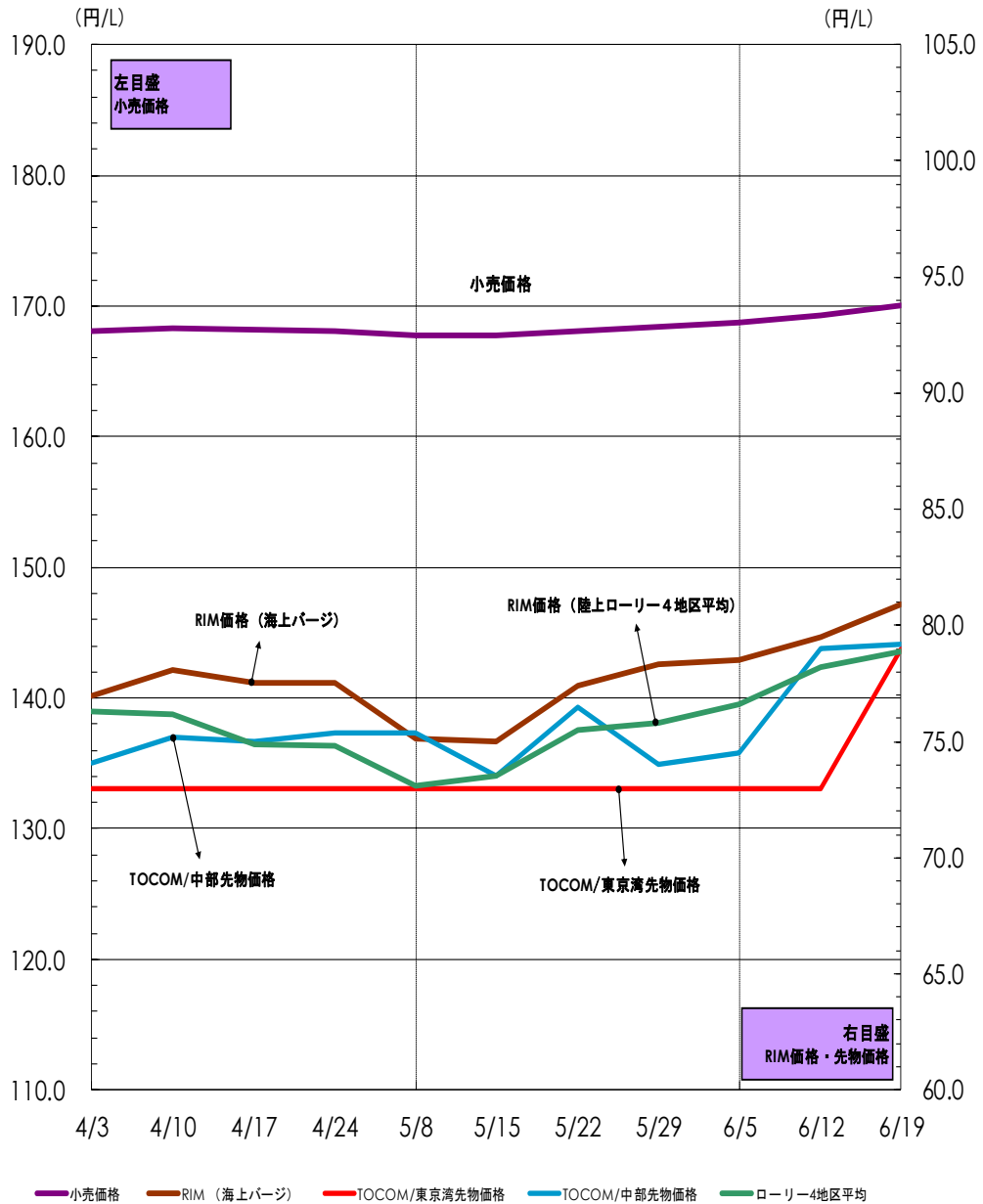
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/4/3 ~ 2023/6/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2023第12号) の公表は、6/30 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。